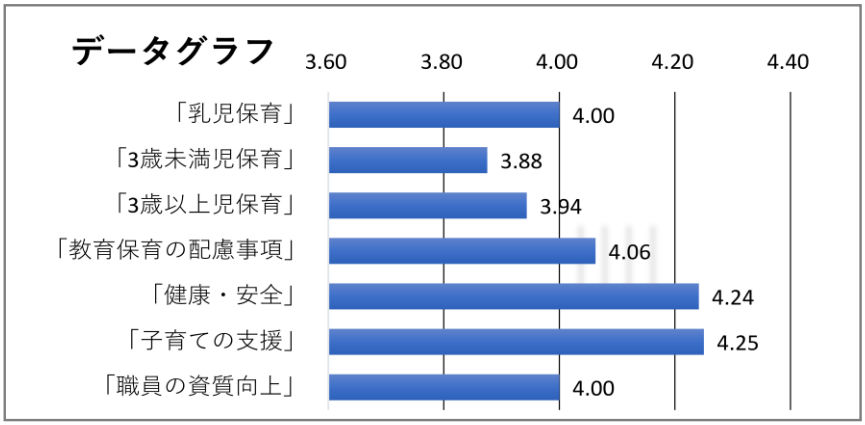
令和６年度幼保連携型認定こども園教育･保育要領に基づく自己評価

作成日　令和7年3月28日

学校法人真徳寺学園　ながさわこども園

評価方法				
5 あてはまる	4 どちらかといえばあてはまる	3 どちらでもない	2 どちらかといえばあてはまらない	1 あてはまらない

評価	項目数	平均
第２章第２節　乳幼児期の園児の保育	15	4.00
第２章第３節　満１歳以上満３歳未満の園児の保育	32	3.88
第２章第４節　満３歳以上の園児の教育及び保育	53	3.94
第２章第５節　教育及び保育の実践に関わる配慮事項	16	4.06
第３章　健康及び安全	29	4.24
第４章　子育ての支援	16	4.25
第５章　職員の資質向上	9	4.00
計	170	**4.03**



総合

暑い時期が続き戸外遊びの時間が限られてしまうことから、室内でめいっぱい身体を動かして遊べるリズムあそびを全学年で取り入れた。構造化された遊びは、特別に支援が必要な子どもにも受け入れやすく、インクルーシブな保育活動として定着した。リズム遊びを楽しみながら、子どもの聴く力、人と関わる力、運動能力と思考能力、反応力などを養うことにつながった。3・4･5歳児クラスで保育者が計画した“環境を知る活動”を「わくわく」の時間と位置づけ、毎月一つの事をテーマに取り上げ、そのテーマを学びの出発点として考える活動を行った。好きなことや関心のあることだけではなく、今まで興味を持たなかった分野に興味を持ち、苦手だったことに取り組むきっかけになりつつある。大人が知識を教え込むのではなく、子どもが自分の経験を思い出し言葉にしながら考えられる園児が増えた。他園の公開保育や県内の先進的な保育を行っている園の見学に参加し、自園の抱える課題を解決するための手がかりを得たり、保育の視野を広げたりすることができた。SDGｓの取り組み開始から約３年、挑戦と失敗を繰り返しながらも、「人々のつながりの場になる、循環型の園庭づくり」と「SDGsの考えを取り入れた保育実践」の活動が認められ、「令和6年度市民環境賞」の受賞に繋がった。保護者に協力を呼び掛けるものの、保護者駐車場のマナーに関する問題が多発し課題となっている。支援が必要な家庭には、予防支援の観点からも課題解決の観点からも他機関や地域資源との連携をとり、それぞれの特性を生かしながら家庭を支援していった。福祉が必要な家庭が増えていることや令和７年度から子育て支援センターが、地域子育て支援機関に機能を拡充することに伴い、今後より専門的な知識の獲得が必要となってくる。

準拠資料：全国認定こども園研修研究機構作成「幼保連携型認定こども園教育･保育要領に基づく保育者支援のための自己評価ワークシート(Ver.1.1)」